

「知的ないい男」のライフスタイル誌  
[メンズ・イーエックス]  
M.Ex 7月号 第10巻 第7号 2003年7月1日発行  
(毎月1日発行) 1994年6月30日第三種郵便物認可

「いい男」にこだわって10

# Men's EX

JULY  
2003

「夏のいい男」には、  
**ポロシャ  
達人に**

週末、暮らすよう

**大人の軽**

夏仕様の腹筋を

Sc

フェンディのメッセンジ  
タグ・ホイヤーのT.ウ

インテリアのキーアイテムを極める

## 男の椅子、男のソファ

- ダイニングチェアは“後ろ姿”で選ぶのが正解
- スイートソファ+オットマンで快樂度2倍
- マッサージチェアは見た目を選ぶ
- アンティークチェアでモダンな部屋に“深み”を出す
- 本格椅子なら日本の作家ものをオーダー
- ベランダに第2のリビングを作る
- 本格ソファベッドでリビングを来客用寝室に
- 和室にも合うソファ! 和風ローリビングが新しい

別冊付録 [ウォッチ・イーエックス]

**W**atch**Ex**

時計王松山猛の2003年  
新作時計ガイドブック



家具作家

## 松岡茂樹

'77年生まれ。'02年、朝日現代クラフト展入選。'03年「デザイン&ワークスkoma」開設。オーダー及び問い合わせはCファクトリー ☎0120-981-474まで。http://www.c-factory.jp/



ゆったりとしたシートに身をゆだねる

「chair E」

ゆったりと広く、床を近く感じる低い座面を持つ安定性。その魅力を堪能できる2人掛けチェア。後ろ脚の微妙なカーブや背もたれのスリットなど、抜アリのデザインが実にニクイ。19万5000円(Cファクトリー)



椅子に座ってくつろぐ時間が楽しみに

「chair B」

やや上向きになっている座面やアームレストが、椅子に座るだけで自然とリラックスできる体勢を生んでくれる。椅子にゆったり揺られてくつろぐ。そんな贅沢な時間が増えそうだ。17万円(Cファクトリー)

# 作家ものをオーダーする

心地よさを実感できるはずだ。

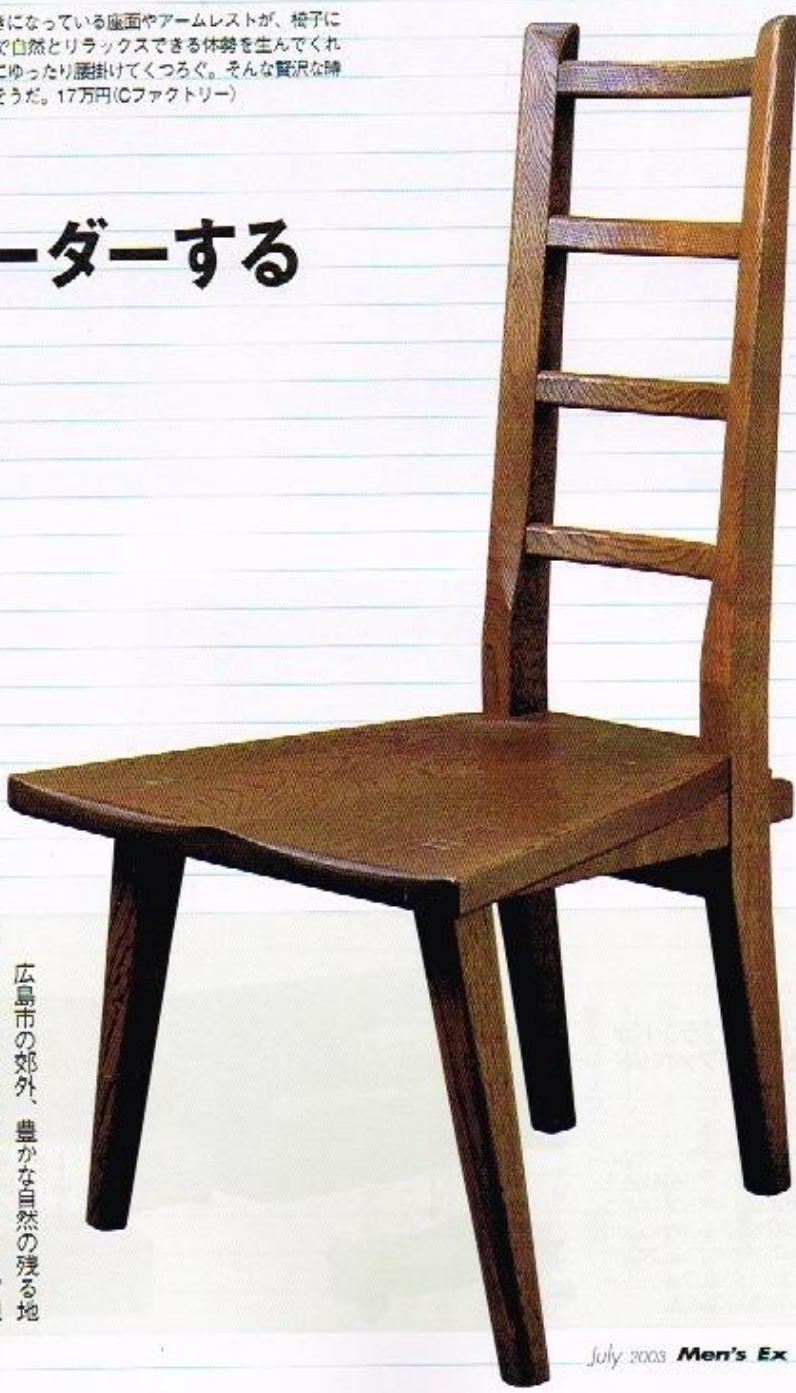
## 持つ特性を生かした手作りチェア

「ナンバー4」

繊細でシンプルながら手作りならではの存在感と、ティンナ力強さが感じられるラダーバックスタイル。ウォールナット材に拭き漆で仕上げられた簡潔な美しさも魅力。15万円(工房KANJI)

## 作家 本寛治

インテリアデザインの仕事に携わり、その後独学で家具デザインを学び木工作家に。現在広島に工房を構える工房KANJI ☎082-839-2355。彼の作品は東京・ラリー・逸紅舎(☎03-3357-7480)でも扱う。



広島市の郊外、豊かな自然の残る地に、松本寛治氏のアトリエはある。現在は注目の木工作家として忙しい日々を送るが、以前は自動車メーカーマツダに籍を置いていたというユニークな経歴の持ち主である。

松本氏の独特の感性から生まれるプロダクトは、どれもみなすっきりと無駄を排し、それでいて温かみや透明感を感じるデザインだ。和にも洋にも似合い、その空間を邪魔しない彼の作品は、東京でも四谷のギャラリーが扱っている。どの作家もの椅子にも言えることだが、打ち合わせなどのやりとりで、完成まで1か月以上を要するころもある。それでも、いつまでも新鮮な印象を受ける椅子は、手に入れる価値がある。



インテリアの中を歩くと椅子と椅子と、インテリア文化として長い歴史を持つ。欧米のクリエーティブ・ディレクター目がいまがちなある。しかし、日本人の体型や生活様式に合った椅子、すなわち本場の意味での心地いい椅子は、もしかしたら日本人の作家となれば生み出すことができないのかもしれない。

松岡茂樹氏は1977年生まれ、2000年より活動を始めたという新進気鋭の家具作家だ。

「家具は、椅子から始まる」が松岡氏の発想の原点だ。初めに椅子があり、



無垢材の魅力が凝縮されたチェア  
「Chair A」

無垢材の手触りは、何ものにも代え難い魅力。使い込むほどに変化する風合いが楽しい。座面のゆるやかなカーブで座り心地も快適。一生付き合っていきたい椅子。ダイニングチェアにおすすめ。15万円(Cファクトリー)

無駄なラインを省いて生まれる美しさ  
「Chair C」

脚からシートバックまで一体化したラインで構成された、横からの眺めも美しいチェア。ブラックウォールットの落ち着きあるブラウンも、有機的な椅子のデザインとよく似合う。12万円(Cファクトリー)

テーブル、照明、収納へとインテリアが派生していく。ひとつひとつが広がっていく空間は、人に心地よいものになっていくはずだ。というのが彼の哲学でもある。

松岡氏の考えるインテリアの原点、椅子。それは一人一人に快適家具を提案していきなさいという彼の姿勢の原点でもある。ブラックウォールナット、チークといった無垢の木の持つ温かみや美しさとそれを引き立たせながら存在感を持たせるデザイン。自分らしくなりなさいように計算されたサイズ。ずっと付き合っていきたいと感じさせるクリエーションだ。

椅子は  
インポートに  
限ると

## 本格椅子は日本の

思っ  
て  
いませんか？

匠の技が集まった日本人作家の椅子をオーダー。無垢材の素晴らしい  
浅川 敏、藤井和美●撮影 田中敏恵●取材、文

### 広いひじ掛けがテーブルの代わりにも

「アーム・チェア」

翼を広げたような、余裕を感じるひじ掛けがデザインのポイント。コーヒーカップやグラスを置くことも可能だ。センの木の木目が実に美しい。70万円(谷進一郎)

木工作家

### 谷 進一郎

1975年より、浅間山麓を望む高原に工房を構える。使い手の暮らしに合った個性的な家具づくりが魅力。椅子をオーダーする際には、まず電話やメールで連絡を。

☎0267-22-1884 <http://www1.odn.ne.jp/tani-ww/>



スーツと同じように、椅子だってその人のクセや好みに合わせてカスタマイズしたほうが、満足いくものができるに決まっている。また、それに加えて素材にまでこだわった椅子、となればそれはもう究極のチェアといってもいいのかもしれない。

主に国産の広葉樹を使用し、その木目までも生かしデザインする作家、谷進一郎氏。彼が扱う木の種類は実に50種類に及ぶ。「ケヤキやセンヤカバは木目がとても美しい。その持ち味を生かしながら作っていきなさいですね」

また、椅子のオーダーは、発注者と直接会い、面談の後正式に受注とする。そうすることで使い手の暮らしに合った、心の底から満足する作品を提供することを可能にしているのである。